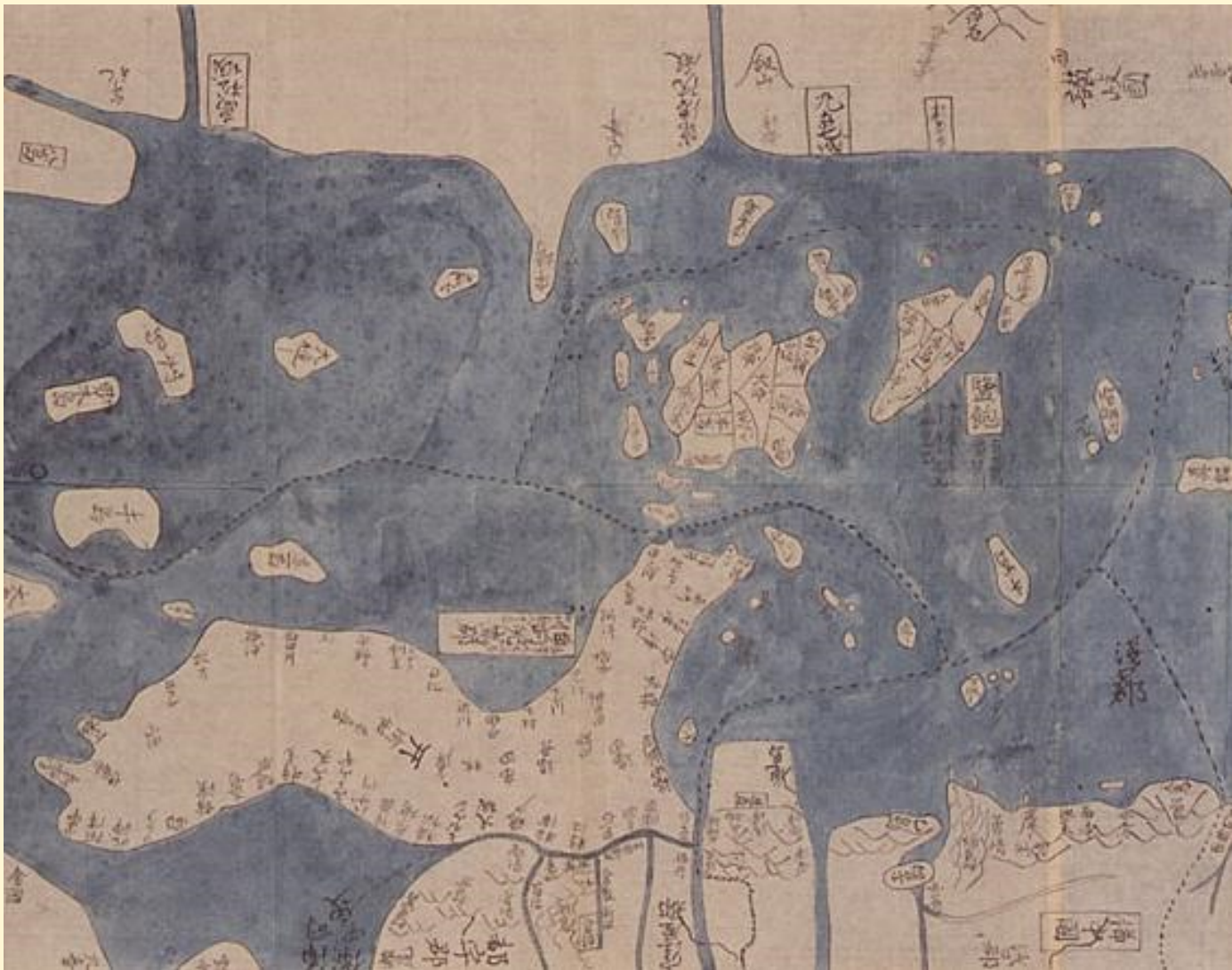


萩藩領吉敷村庄屋野村家夫婦の

四国巡礼

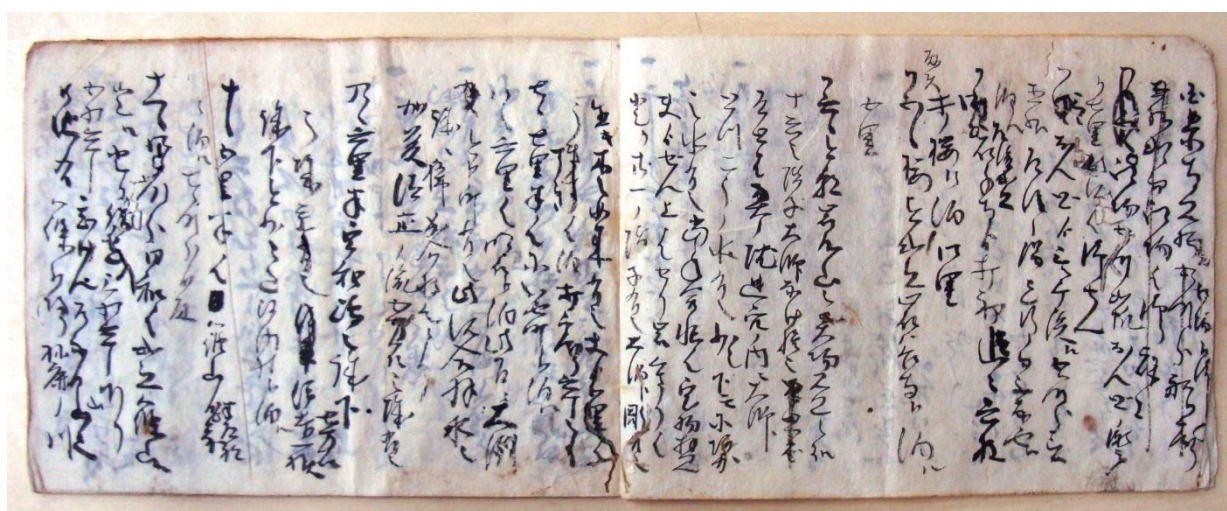
—天保五年「道中記」ほか—



「備中近辺諸島全図」毛利家文庫58絵図202

目次

目次	1
解説	2
四国八十八ヶ所霊場と遍路概略図	3
野村吉左衛門一行の四国巡礼ルート	4
凡例	5
道中記	6
野村吉左衛門夫婦本四国順拝参御歛帳	6



野村家文書「道中記」本文

解説

「道中記」と「野村吉左衛門夫婦本四国順拝参御歎帳」は、山口県文書館蔵・野村家文書（山口市）の中の2点である。野村家は、江戸時代、萩藩山口宰判吉敷村（現山口市吉敷）に居を構え、同村の給庄屋（一門吉敷毛利家領）などを務めた家である。

「道中記」は、天保五年（一八三四）二月、野村吉左衛門とその妻、および岡屋市郎右衛門夫婦、善蔵夫婦、孫貞の計七名が、連れだつて四国八十八ヶ所巡りに出かけた際の旅日記である。

旅の行程は後掲表に示した。一行は二月二十七日に出発し、途中宮島・広島に立ち寄り、三月三日に伊予国三津浜に上陸する。以後西回りで八十八ヶ所巡りを進めたが、旅の終盤、連れの岡屋が足を痛めたため旅の中断を余儀なくされ、四月十七日、讃岐国多度津を出帆し四国を離れた。八十八ヶ所巡りは成就できず十九ヶ所が未参拝となった。岡屋の治療のため帰日も宮島に立ち寄り、その後、海路を使って二十日に由宇、二十一日に富海に着いた。ここから陸路、駕籠を使って夜通し進み、二十二日四ツ時（午前一〇時頃）に岡屋宅に着き、その後自宅に戻った。五六日間の旅であった。

この旅に関する文書はいくつかあるが、「野村吉左衛門夫婦本四国順拝参御歎帳」はそのひとつである。吉左衛門夫婦が旅に出る前、知人、親類、近所や縁故の者たちから送られた餞別の品々、また、彼らが帰国した際、同様の人たちから贈られた祝いの品々を書き留めた帳簿（横長帳）である。吉左衛門家の交友関係を示すものとし

て注目される。

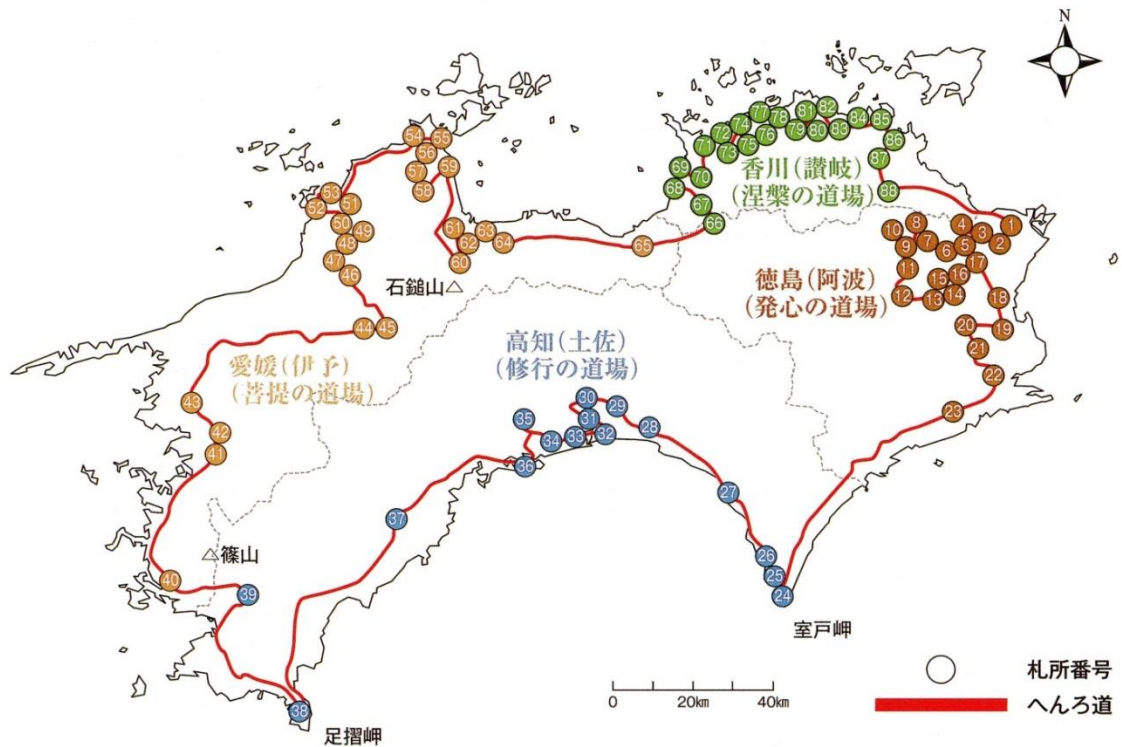
山口県文書館には江戸時代の旅日記が数多く残るが、野村家文書の「道中記」は、夫婦づれの旅を記録したものとしては、現時点で確認できるも唯一のものである。

本テキストは、実践講座卒業生を中心とする古文書解読自主グループ「けやきの会」が平成27年度に解読した。会のメンバーは左記のとおり。

久保田有香・森重由祁子・三好能子・上田蕃穂・山本節子・井本澄江・高田美智子・杉山恵子

〈サポート〉山崎一郎・山本明史・吉積久年（山口県文書館）

四国八十八ヶ所霊場と遍路道概略図



徳島県	
札所番号	寺院名
1	霊山寺
2	極楽寺
3	金泉寺
4	大日寺
5	地藏寺
6	安楽寺
7	十楽寺
8	熊谷寺
9	法輪寺
10	切幡寺
11	藤井寺
12	焼山寺
13	大日寺
14	常楽寺
15	国分寺
16	観音寺
17	井戸寺
18	恩山寺
19	立江寺
20	鶴林寺
21	太龍寺
22	平等寺
23	薬王寺

高知県	
札所番号	寺院名
24	最御崎寺
25	津照寺
26	金剛頂寺
27	神峯寺
28	大日寺
29	国分寺
30	善楽寺
31	竹林寺
32	禅師峰寺
33	雪蹊寺
34	種間寺
35	清瀧寺
36	青龍寺
37	岩本寺
38	金剛福寺
39	延光寺

愛媛県	
札所番号	寺院名
40	観自在寺
41	龍光寺
42	仏木寺
43	明石寺
44	大宝寺
45	岩屋寺
46	浄瑠璃寺
47	八坂寺
48	西林寺
49	浄土寺
50	繁多寺
51	石手寺
52	太山寺
53	円明寺
54	延命寺
55	南光坊
56	泰山寺
57	栄福寺
58	仙遊寺
59	国分寺
60	横峰寺
61	香園寺
62	宝寿寺
63	吉祥寺
64	前神寺
65	三角寺

香川県	
札所番号	寺院名
66	雲辺寺
67	大興寺
68	神恵院
69	観音寺
70	本山寺
71	弥谷寺
72	曼荼羅寺
73	出釈迦寺
74	甲山寺
75	善通寺
76	金倉寺
77	道隆寺
78	郷照寺
79	天皇寺
80	國分寺
81	白峯寺
82	根香寺
83	一宮寺
84	屋島寺
85	八栗寺
86	志度寺
87	長尾寺
88	大窪寺

※本図は、愛媛県生涯学習センター『四国遍路のあゆみ』
(平成13年刊)所収の「四国八十八ヶ所霊場概略図」
をもとに一部加工した。

愛媛県歴史文化博物館編『四国遍路ぐるり今昔』(2014年)4頁を転載引用

表 天保5年(1834) 野村吉左衛門夫婦一行の四国巡礼ルート

月日	国名	参 拜 所	宿泊地
2月27日	周防	朝出立	宮市
2月28日		宮市出立	徳山埜市
2月29日			岩国
2月晦日	安芸		宮島滞船
3月1日			宮島
3月2日		東照宮・国泰寺	音戸滞船
3月3日	伊予	三津浜着	道後温泉
3月4日		51石手寺・50繁多寺・49浄土寺・48西林寺・47八坂寺・46浄瑠璃寺	桜
3月5日		45岩屋寺	岩屋寺
3月6日			白杵
3月7日			新谷
3月8日			明石
3月9日		宇和島城下	河内村
3月10日			篠山
3月11日			正木
3月12日		40観自在寺	土佐
3月13日	土佐		上長谷村
3月14日		38金剛福寺	窪津
3月15日			以布利
3月16日			入野
3月17日			橘川
3月18日		37岩本寺	久礼浦
3月19日			井尻
3月20日		36清龍寺・35清滝寺・34種間寺	
3月21日		33雪隠寺・32禅師峰寺・31竹林寺・30善楽寺	八幡村
3月22日		29国分寺・28大日寺	
3月23日	阿波	27神峯寺	田野浦
3月24日		26金剛頂寺・25津照寺	室戸
3月25日		24最御崎寺	入木村
3月26日			那佐
3月27日		23薬王寺	日和佐
3月28日			日和佐
3月29日		22平等寺	新野村
3月30日			太龍寺麓
4月1日		21太龍寺・20鶴林寺	立江寺近所
4月2日		19立江寺・18恩山寺・17井戸寺	井戸寺近所
4月3日		16観音寺・15国分寺・14常楽寺・13大日寺・12焼山寺・11藤井寺・10切幡寺・9法輪寺・8熊谷寺・7十楽寺・6安楽寺	
4月4日			七条
4月5日			七条
4月6日			
4月7日			
4月8日			
4月9日		5地藏寺・五百羅漢・4大日寺・3金泉寺・2極楽寺・1靈山寺	阿波番所
4月10日			白鳥
4月11日	讃岐	88大窪寺	大窪寺
4月12日		87長尾寺・86志度寺	八栗寺麓
4月13日		85八栗寺・84屋嶋寺・83一ノ宮・仏生山	一ノ宮麓
4月14日		80国分寺・82根香寺・81白峯寺・79天皇寺・78郷照寺・77道隆寺	道隆寺麓
4月15日		76金倉寺・金毘羅	金毘羅町
4月16日		75善通寺・74甲山寺・72曼荼羅寺・73出釈迦寺・71弥谷寺	
4月17日		多度津出帆	
4月18日	安芸		宮島
4月19日			宮島
4月20日	周防		由宇
4月21日		富海着船	

(けやきの会作成)

凡例

一、当史料は、平成27年度古文書解読自主グループ「けやきの会」が解読したものである。

一、漢字は原則として常用漢字を使用した。

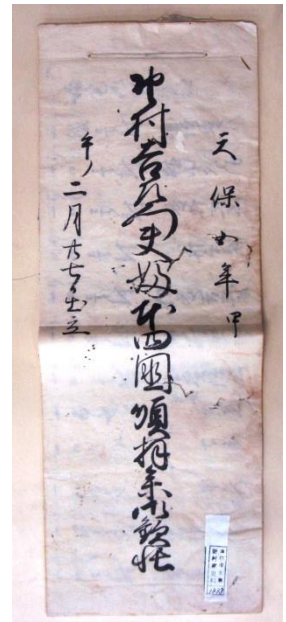
一、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」(は)を除いて、原則として平仮名に改めた。

一、適宜、読点および並列点を付した。

一、抹消部分は、原則として訂正部分をそのまま本文とした。

一、説明として加えた傍注は()で示した。

一、本文右上に小活字()書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。



野村家文書「野村吉左衛門夫婦本四国順拝参御歎帳」の表紙と本文

道中記

野村吉左衛門夫婦本四国順拝参御歡帳

道中記

天保五年(一八三四)二月二十七日出立

旅一行 善藏・妻、順番ノ孫貞同道ニテ、風雨

宮市 強故、宮市江泊、

廿八日、宮市出立、富海より船ニテ徳山着
埤市ニテ泊、

呼坂 一廿九日、出立、呼坂・高森・玖珂・金明寺
高森 坂・岩国橋東詰、松金屋喜七江泊、
玖珂
欽明路

新湊 一晦日、岩国出立、新湊江着、直様

新湊出帆 三、五百文かり切りニして出帆、日入

宮島 時分宮島江着、滞船之事、

宮島出帆 三月朔日、宮島四ツ時分出帆、
猫屋 (広島本川橋)

猫屋橋 はし尻江七ツ時着、直様上り候而

見分、猫屋橋江船乗候而、爰ニテ
滞船之事、

東照宮参詣 同二日、夜明時より出候而、東照宮参詣、
市中見物、四ツ時分出帆、上田清吉江
相对、音信物有之、猫屋はし、

本家橋、京町、
玄(猿橋カ)こうはし、

③ (江波)

国泰寺見物ニ付、江場江滞候事、

江波出帆 江場五ツ時出帆、
音(音)巳 おんどノ瀬戸
音戸ノ瀬戸 滞船

江七里、此所ニテ滞せん、

同三日、おんどより三ツヶ浜江五ツ時分着、
伊予国(津彦)

道後温泉 直様道後之湯迄行候而、ふなや江泊ル

石手寺 同四日、道後出立、石手寺より打初、追々六枚

桜 打、桜江泊、四里、

岩屋寺 同五日、桜を出立、岩谷寺江泊ル、五里、
雨(岩屋寺)

同六日、今朝岩屋山之霊場見廻候处、

十六之階子大師なけ捨也、

やとは奥ノ院迎、穴ノ内ニ大師

(独 鮎) とつこうノ水有之、少し下モにあか
(關伽)

独鈷水 之水有之、当年開帳ニテ宝物拝見
關伽水

夫よりぜん上ニテセリ岩くさりニテ
(禪定)

登り、廿一ノ階子有之、大師彫付之

④

生ギ木之如来有之、夫より五里ニテ

(白 杵) うすきニテ泊、打戻り六丁之事、

七日、七里半ニてにいや町江泊ル、
(新 釜)

八日、六里ニテ明石江泊、此間ニ大洲

と申町有之、此所合羽求之、

誠ニ稀成合羽ニテ候事、

大洲城	加藤清正ノ流、五万石之城有之、
宇和島城下	九日、六里半宇和島之城下七万石
河内村	之城主有之、伊達様
	城下を少々過、河内村江泊ル、
	十日、五里半ニて篠山より半道程戻
	ニ泊ル、七ツ時分より雨、
篠山	十一日、四ツ時分日和ニて出立、篠山江
	登ル、登り詰迄三拾六丁、下り
	五拾六丁、甚けん （險阻） なる山也、
池	御池有、篠江帰り、麓ノ川
正木	を渡、暮時分まさき江泊ル、
観自在寺	十二日、早朝出立、 （観自在寺） 観自在打戻り、
	式里ニて土佐之番所近所江泊ル、
	八里半、
土佐の番所	十三日、早朝出立之處、土佐之入口
	番所切手取付隙取候而、六里
上長谷村	ニて上長谷村江泊ル、
市野瀬	十四日、式里参り候処一ノ瀬と申候而、
金剛禪寺	（足摺山金剛禪寺） 是よりあしすり山江七里之
窪津	打戻りニ付、あしすり山より式里
	（窪津） 手前くぼつと申所江泊ル、
	十五日、くぼつ出立、あしすり山江

以布利	往来ニて四里、夫より壹里戻り
足摺山七不思議	いふり江泊ル、足すり山二ハ
	七ふしぎ有之、手引四拾文ニて
	見物いたし候事、三本松有之
	候分江大晦日二天燈、又壹本二
	龍燈灯候由、芝原有之、夜中
	龍馬上り、芝を喰、昼雨ふり候由、
	石ノ鳥居半分有之、お亀迎呼
	候得ハ浮候由、いぶりニハ宿至極有兼候事、
入野	十六日、いぶり出立、八里程ニて
四万十川	（入野） いりの江泊ル、安藤屋と申者、
	今日之間二四万十川迎大川
	有之候事、
橋川	十七日、いりの出立、 （橋川） 立花川江泊
周防国間田の者	七里、今日間田之者江行相、書状
	言伝候事、
久礼	十八日、七里ニてくれ浦江泊、今日
	昼時分五社を打、
横浪	十九日、くれ浦より五里来り、 （横浪） よこ
井尻	なみと云所より三里、船二ていの
青龍寺	（井尻） しり江渡、泊ハ礼なし、
	廿日、早朝青龍寺江参り、いの

不動明王	清瀧寺	種間寺	雪隠寺 禪師峰寺 竹林寺 一ノ宮	八幡村	国分寺 大日寺	神峯寺	田野町	金剛頂寺 津照寺 最御崎寺	入木村	飛石はね石	野根	那佐									
しり江式拾五丁打戻り、奥ノ院江	参り候処、石ノからをとノ内ニ不動	明王有之候、船渡しニて清瀧江参り、	種間寺江参り候、今日五里、	廿一日、高福寺・禪師峯寺・五台寺・	一ノ宮共二四ヶ所打、八里ニてやわた	村江泊ル、	廿二日、国分寺・大日寺共二式ヶ所打、六里	ニて、	廿三日、神峯江参詣、三拾丁之打	戻りニて田ノ浦江泊、七里、	廿四日、西寺・津寺を打、東寺	之麓江泊、五里、	廿五日、東寺を打、五里ニて入木村江	泊ル、尤雨天ニて七ツ時過泊、尤	是より飛石はね石江懸り、宿無之	ニ付早泊り候事、	廿六日、入木よりのね迄之間三里、家	なし候処、中程ニ庵壺軒有之、	此間はね石・飛石・ごろく石之	間通候事、此間廿壺里之事故	札打不申、なさと云所江泊ル、

土佐国番所	阿波国番所	薬主寺	日和佐村	平等寺 新野村 吉敷の久七 月夜村 長野の源蔵	岡屋足痛	太龍寺	鶴林寺	立江寺	恩山寺 井戸寺												
八里、土左之入切手日次共二土左	之番所江渡、拾八丁過候而、	阿波ノ番所有之、入切手受	取候事、	廿七日、七里行候而、薬主寺江参ル、	ひわさ村江泊ル、	廿八日、風雨烈敷、尚岡屋少々	足痛故滞り候事、	廿九日、平等寺を打、麓あらたノ村	泊ル、吉敷ノ久七江相对、高井ノ者	女中江も相对、月よ村かね	うち坂之間ニ長野ノ源蔵三月	五日死去之石塔有之、五里、	晦日、少々雨ふり、尚岡屋足痛	故、壺里程参り候而、大龍寺之	麓江泊ル、	四月朔日、壺里登り、大龍寺江参、	鶴林寺江参詣、両寺共二大地ニて	候事、立江寺江近所江泊ル	五里、	二日、立江江参詣、恩山寺・井戸寺江	参り、六里ニて井戸寺近所江泊ル、

徳島城下

三日、阿波徳島城下を通、岡屋足痛故、吉右衛門同道

(10)

二て、七条柚ノ木村古酒屋勇吉と

申者兼而懇意ニ付罷越候、孫右衛門・

藤井と吉右衛門妻同道ニて、拾六番之

観音寺より六番迄順拝仕候事、

四日、吉右衛門七条より出立、六番之札所

より十番迄札打候事、拾六番より

七番迄抜ケ候事、

五日、三人共二八ツ時分七条江帰り候事、

六日、孫右衛門計出立、四人ハ滞り候事、

七日、四人共二滞り候事、

八日、同断、

九日、加籠ニて勇吉・伊勢松と申者雇候而

出立、五番之地蔵を打、尤此札所二五百

羅漢之大仏有之、大日寺・金泉寺・

極楽寺・霊山寺を打、三番之札所江

戻り、阿波之番所迄ニ来り泊ル、

五里、尤勇吉妹婿之大坂屋清七方江滞留

十日、大坂越より白鳥江参り、三里

ニて爰元春市ニて阿波地之源之允

迎諸芸之司、操有之候故見分、尤是ハ

夜中昼芝居、昼時分より初播州

白鳥
春市
阿波之源之允
操り

地藏寺
五百羅漢
大日寺
金泉寺
極楽寺
霊山寺

観音寺
安楽寺
切畑寺
十楽寺

播州芝居

操り日本一

白鳥
大津寺

長尾寺
志度寺

八栗寺

屋島寺
一宮寺

仏生山

国分寺
根来寺
白峯寺
天皇寺
道隆寺
崇徳天皇墓所
源頼朝墓
源為朝像
金倉寺
金比羅社

之芝居至極上手ニて目を覺し候、

尚又操ハ誠ニ日本一と申程之事ニて

纔ニ珍敷人形見分仕候、

十一日、白鳥出立、八拾八番之大津寺

打、爰元江泊ル、四里半、

十二日、長尾寺・支度寺

を打、八栗寺之麓江泊ル、

六里、

十三日、八栗寺・八嶋寺・一ノ宮

三ヶ所札打、麓江泊ル、八島江

岡屋ノ札打候事、

仏生山江参詣、至極大地

ニて目を驚し候事、

十四日、駕籠持ノ伊勢松、足

痛ニて七条江帰り候、夫故国分寺

ニて雇四百文ニて候、国分寺・根来寺

白峯山・天皇・道場寺・道隆寺

を打、麓江泊、白峯ハ崇徳

天皇之御墓所、頼朝之墓、

鎮西八郎為朝之像有之、

十五日、金倉寺を打、金比羅社江

参詣、金比羅町江泊ル、今日雨天

善通寺
甲山寺
曼荼羅寺
出釈迦寺
弥合寺
多度津出帆
二て昼より出立、三里、
十六日、金比羅出立、善通寺、
甲山寺、(曼荼羅寺)、出釈迦寺、
弥谷寺を打、岡屋気分相二付、
(多度津)直様田度津江出、船かり切二して
十七日朝出帆、讃州五枚打残し、
伊予拾四枚二て、都合拾九枚
打残し候事、五里、
十七日、田度津出帆、
十八日、昼時分宮島江着、病人を
医師江見せ、薬服用仕せ候事、
十九日、今朝医師見廻候而、亦々
服薬兼剂共二拾七服調合、宮
島江滞船候事、
(14)
廿日、未明出帆、昼時分よりふり
候而、岩国ノゆうと所江懸り候事、
廿一日、未明ゆうを出帆、薄暮
時分富海江着船、直様駕籠
をかり、岡屋を乗、夜通り
帰り候処、廿二日四ツ時分岡屋迄
道行中一同二帰り候事、
五十六日振之帰宅之事、
帰宅

(終)

四国順拝参
御歛帳

(16) 表紙

天保五年甲
野村吉左衛門夫婦本四国順拝参御歛帳
午ノ二月廿七日出立

帰宅御歛之部

(17) 帰宅御歛之部

三匁 一銀壱封 国増藤八
三匁 一同壱封 植田彦兵衛
三匁 一同壱封 藤井惣右衛門
三匁 一同壱封 □村平左衛門
三匁 一同壱封 伊藤吉惣殿
三匁 一同壱封 野村亀次郎
三匁 一同壱封 国広源左衛門
一百匁 一 関屋ノ文左衛門
一同 一 同ノ七右衛門
銀二分 一式百匁 同ノ半左衛門
三匁 一銀壱封 宗村孝右衛門
三匁 一同壱封 吉岡三郎右衛門
(18)
三匁 一銀壱封 中原介作殿
三匁 一銀壱封 隣ノ重右衛門
三匁 一鳥目壱包 同ノ三之允

一同三匁 松田播磨守

(22)

一銀三匁 寺田八左衛門

一同式匁 内田善左衛門

一同式匁 高井ノ宇右衛門

一同壹匁 畔頭七之允

一同式匁 同 庄右衛門

出立之節餞
別御暇乞共
覺付

(23)

出立之節餞別御暇乞共覺付

中尾弥右衛門

中原介作殿

国増藤八

吉岡三郎右衛門

磯村静馬殿

(24)

一餅五拾 藤井惣右衛門

一 おやき三拾五 渡辺弥惣太殿

一酒壹升 国増藤八

一豆(豆腐)貳拾丁 大坪ノ吉之介

一(鰻頭)まんちう五十

内田善左衛門

一餅五十 白井彦右衛門殿

一同五十 磯村静馬殿

一あつき飯(小豆) 大坪ノ作右衛門

一まんちう三拾 重枝源右衛門

一あつき飯 隣ノ重右衛門

(25)

一餅二十 植田彦兵衛

一酒壹升 中尾弥右衛門

一餅七十 桑原武兵衛

一まんちう三十 伊藤吉惣殿

一生姜漬 光福寺

一豆ふ廿丁 岡喜文治

一菓子壹箱 玄濟寺

一餅二十七(蕎麦) 寺領ノ庄左衛門

一そは切 村崎九郎右衛門

一鯛壹枚大 井関喜右衛門

一同壹枚中 せノ三之允

一同壹枚中ノ大 寺ノ喜代介

(26)

一赤飯壹升五合飯位 大楽伝右衛門殿

一同 セノ要介

一鯛壹枚中 寺ノ喜兵衛

一同壹枚大 吉富藤兵衛

(終)